

土木工事施工計画書作成の手引き

平成25年4月

栃木県 県土整備部

目 次

1	施工計画の目的	P 2
2	施工計画書記載事項の内容	P 3
3	施工計画書作成の留意点	P 4
4	施工計画書作成のフロー図	P 5
5	施工計画書作成要領	P 6
5-1	表紙	P 6
5-2	目次	P 6
5-3	工事概要	P 7
5-4	計画工程表	P 8
5-5	現場組織表及び施工体系図	P 10
5-6	指定機械	P 13
5-7	主要資材	P 13
5-8	施工方法	P 14
5-9	施工管理計画	P 17
5-10	安全管理	P 22
5-11	緊急時の体制及び対応	P 27
5-12	交通管理	P 29
5-13	環境対策	P 31
5-14	現場作業環境の整備	P 32
5-15	再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法	P 32
5-16	その他	P 33
6	参考資料	P 37
6-1	施工計画書に記載を要する事項	P 37
6-2	その他提出を要する計画書	P 42

1 施工計画の目的

施工計画作成の目的は、図面・仕様書等に定められた工事目的物を完成するために必要な手順や工法及び施工中の管理等について定めるものであり、工事の施工・施工管理の最も基本となるものである。

栃木県土木工事共通仕様書第1編1-1-4第1項に「請負者は、工事着手前に工事目的物を完成するために必要な手順や工法等についての施工計画書を監督員に提出しなければならない。」と規定されており、施工計画書には、下記の事項について記載しなければならない。ただし、請負額1,000万円未満の工事においては、簡易な施工計画（※）とすることができる。また、100万円未満の工事は作成を要しないものとする。

- (1) 工事概要（※）
- (2) 計画工程表
- (3) 現場組織表及び施工体系図（※）
- (4) 指定機械
- (5) 主要資材
- (6) 施工方法
- (7) 施工管理計画
- (8) 安全管理
- (9) 緊急時の体制及び対応（※）
- (10) 交通管理
- (11) 環境対策
- (12) 現場作業環境の整備
- (13) 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法
(再生資源利用・促進計画書（※）)
- (14) その他（受注者・発注者が工事施工上必要な事項）（※）

さらに「監督員がその他の項目について補足を求めた場合には、追記するものとする。

このほか、第2項には「受注者は、施工計画書の内容に重要な変更が生じた場合には、そのつど当該工事に着手する前に変更に関する事項について、変更施工計画書を監督員に提出しなければならない。ただし、数量のわずかな変更等、軽微な変更の場合には提出を要しない。」また、第3項には「受注者は、施工計画書を提出した際、監督員が指示した事項について、さらに詳細な施工計画書を提出しなければならない」と規定されている。

2 施工計画書記載事項の内容

栃木県土木工事共通仕様書に規定されている記載事項の標準的内容は下表のとおりである。

記載事項		内容
工事概要		工事名、河川又は路線名、工事場所、工期、請負代金、発注者、受注者、工事内容（設計書のコピー可）、位置図、一般平面図、標準横断面図等
計画工程表		ネットワーク（PERT）又はバーチャート方式等で作成
現場組織表及び施工体系図		現場の組織、編成、命令系統、業務分担、施工体系図
安全管理		安全管理体制、安全対策、安全教育及び安全訓練等の実施方法、安全巡視の実施方法、安全活動方針
指定機械		指定機械
主要資材		指定材料、主要材料、材料試験方法
施工方法		主要工種毎の作業フロー、施工方法、使用機械、仮設備の構造配置、仮設建物、材料、機械等の仮置場、プラント等の機械設備、運搬路、仮排水、安全管理に関する仮設備、指示・承諾・協議事項の予定内容
施工管理計画	工程管理	実施工程の手法・管理方法
	品質管理	品質管理計画表
	出来形管理	出来形管理計画表
	写真管理	写真管理計画表
	段階確認	段階確認計画表
	品質証明	品質証明計画表（設計図書で品質証明の対象工事と明示された場合）
	電子納品	工事施工中のデータバックアップ体制等
緊急時の体制及び対策		事故発生時の連絡系統図、対応策 災害発生時の体制、異常気象等の防災対策、事故報告
交通管理		交通管理、交通処理、過積載防止
環境対策		大気汚染、水質汚濁、騒音・振動対策
現場作業環境の整備		現場作業環境に関する仮設、安全、営繕対策
再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法		再生資源利用計画書、再生資源利用促進計画書、処理委託業者名、マニフェスト使用の徹底、社内の管理体制
その他		契約図書及び監督員の指示で、施工計画書に記載を必要とするもの。関係機関との協議先一覧（警察署、労働基準監督署、道路管理者等）

3 施工計画書作成の留意点

3-1 施工計画の基本事項

施工計画作成時に検討する基本的項目は、次のとおりである。

- ①工事の目的、内容、契約条件等の把握
- ②現場条件（地形、気象、道路状況、近接状況、環境、制約条件等）
別紙ハ（現場事前調査チェックリストの例）：P.36 参照
- ③全体工程（基本工程）
- ④施工方法（施工順序、使用機械等）
- ⑤仮設備の選択及び配置

3-2 施工計画作成の要点

施工計画作成は、上記基本事項を十分調査・検討・把握し、施工性・経済性・安全性との関連を繰り返し検討（施工計画作成フロー図参照）しながら、最適施工体制を決定する事が重要である。

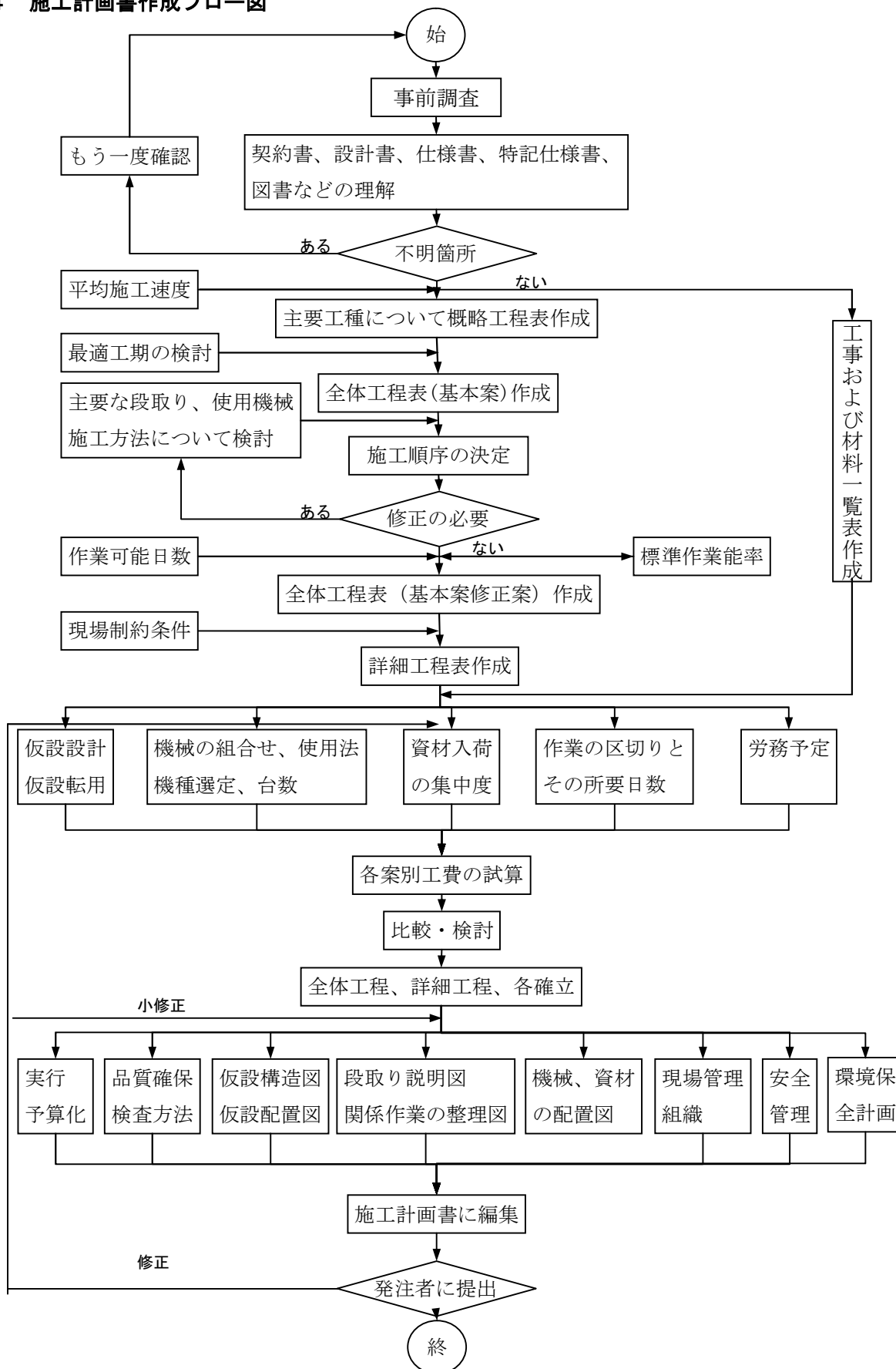
公共工事を施工するための計画書作成は、すでに受注を決定し、施工開始期日を前提として作成される場合が一般的である。このことから、受注時の自社の体制・実施能力との関連も検討し、確実に施工できるものでなければならない。しかし、現実性を追うあまりに、新技術・新工法等を検討できないようでは、技術の進歩はあり得ない。小規模であっても、新技術・新工法の採用を含めた幅広い検討が必要である。

具体的検討項目は、次のとおりである。

- ① 生産性の向上に関する標準的な検討項目
 - (a)合理的な分割施工
 - (b)仮設の独自性
 - (c)作業の規格化・標準化
 - (d)新技術・新工法の採用
 - (e)施工の機械化
- ② 環境保全に関する標準的な検討項目
 - (a)環境の観点からの資材や機械の選別
 - (b)地域社会への貢献
 - (c)廃棄物の減量化・適正処理
 - (d)エネルギー利用の効率化
 - (e)社員の意識改革

このように、施工計画の作成にあたっては、基本事項を十分把握し、経済性・施工性等を検討することは勿論、現在の社会的要請も認識し、自主性・創意性を失わないような形で幅広い検討を行うことが重要である。

4 施工計画書作成フロー図



5 施工計画書作成要領

5-1 表紙

- ・ 施工計画書の用紙規格はA-4縦、横書きを原則とする。

【作成例】

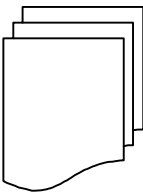


5-2 目次

- ・ 栃木県土木工事共通仕様書第1編1-1-4に規定されている記載事項のほか、工事の内容に応じて、項目の追加、細分化をしてよい。

【作成例】

目 次	
1	工事概要…………… 1
2	計画工程表…………… 3
3	現場組織表及び施工体系図…………… 7
4	指定機械…………… 9
5	主要資材……………10
6	施工方法……………11
6-1	土工……………11
6-2	排水工……………14



5-3 工事概要

・工事の概要及び内容を記載する。工事内容は工事数量総括表の工種・種別・数量等を記入する。工種が一式表示及び主体工種以外については、工種のみでの記載でもよい。

【作成例】

工 事 概 要

工事名	〇〇〇〇工事
河川又は路線名	一般国道〇〇〇号
工事場所	〇〇県〇〇市〇地先～〇〇県〇〇市〇地先 L=〇〇m
請負代金	¥〇〇, 〇〇〇, 〇〇〇円
契約年月日	平成〇〇年〇月〇日
工期	自平成〇〇年〇月〇日～至平成〇〇年〇月〇日間
発注者	〇〇土木事務所 TEL〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
請負者	〇〇建設株式会社 TEL〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
	所在地 〇〇県〇〇市〇〇-〇〇〇
	〇〇作業所 TEL〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
	所在地 〇〇県〇〇市〇〇-〇〇〇

工 事 内 容

工種	種別	細別	規格形状寸法	単位	数量	摘要
土 工				式	1	
基 礎 工	既 製 杭 工	鋼管杭打設		本	23	
擁 壁 工	1号擁壁工			m	40	
	2号擁壁工			m	25	
	ブロック積			m ²	700	
路 盤 工	下層路盤工			m ²	700	
	上層路盤工			m ²	700	
舗 装 工	表 層 工			m ²	700	
	仮 設 工			式	1	

※ 設計書（数量総括表）のコピーでも良い。

5-4 計画工程表

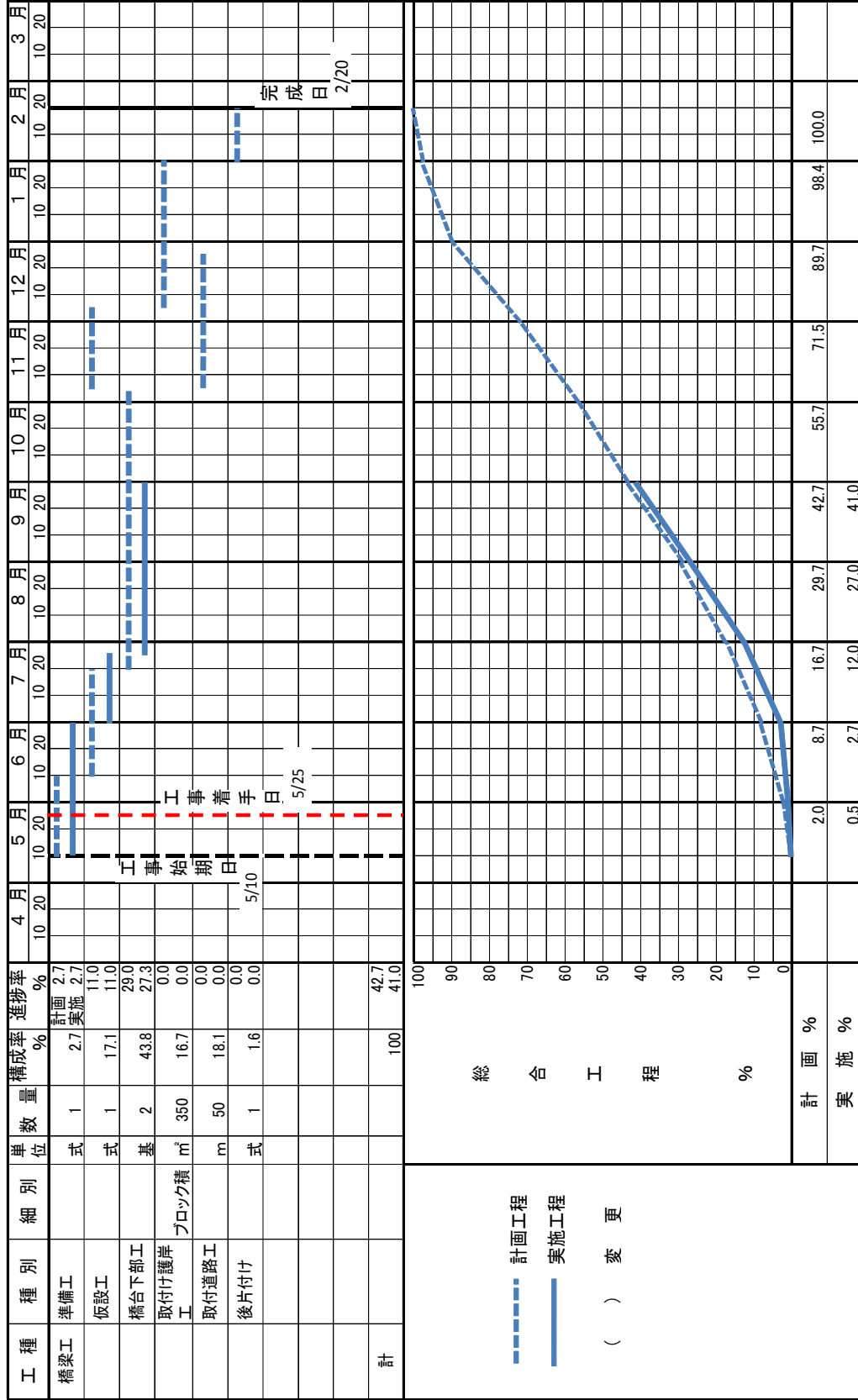
- ・計画工程表は、工程管理を工事内容に応じた方式（ネットワーク【PERT】又はバーチャート方式など）により作成した実施工程表により行うものとする。但し、応急処理工事、維持工事等の当初計画が困難な工事又は請負額が100万円未満の工事については、省略できるものとする。
- ・各種別又は細別毎の作業開始、終了がわかるように記載する。
- ・工程表は、それぞれの作成方法・特性を十分理解し該当工事に適した手法で作成する。

工事実施工程表

【記入例】

平成00年 9月 30日 現在

工事名 道路改良工事 ○○○線の1 ○○市○○○ 工期 自平成00年5月10日(工事着手日 平成00年5月25日) 至平成00年2月20日 会社名: 現場代理人:

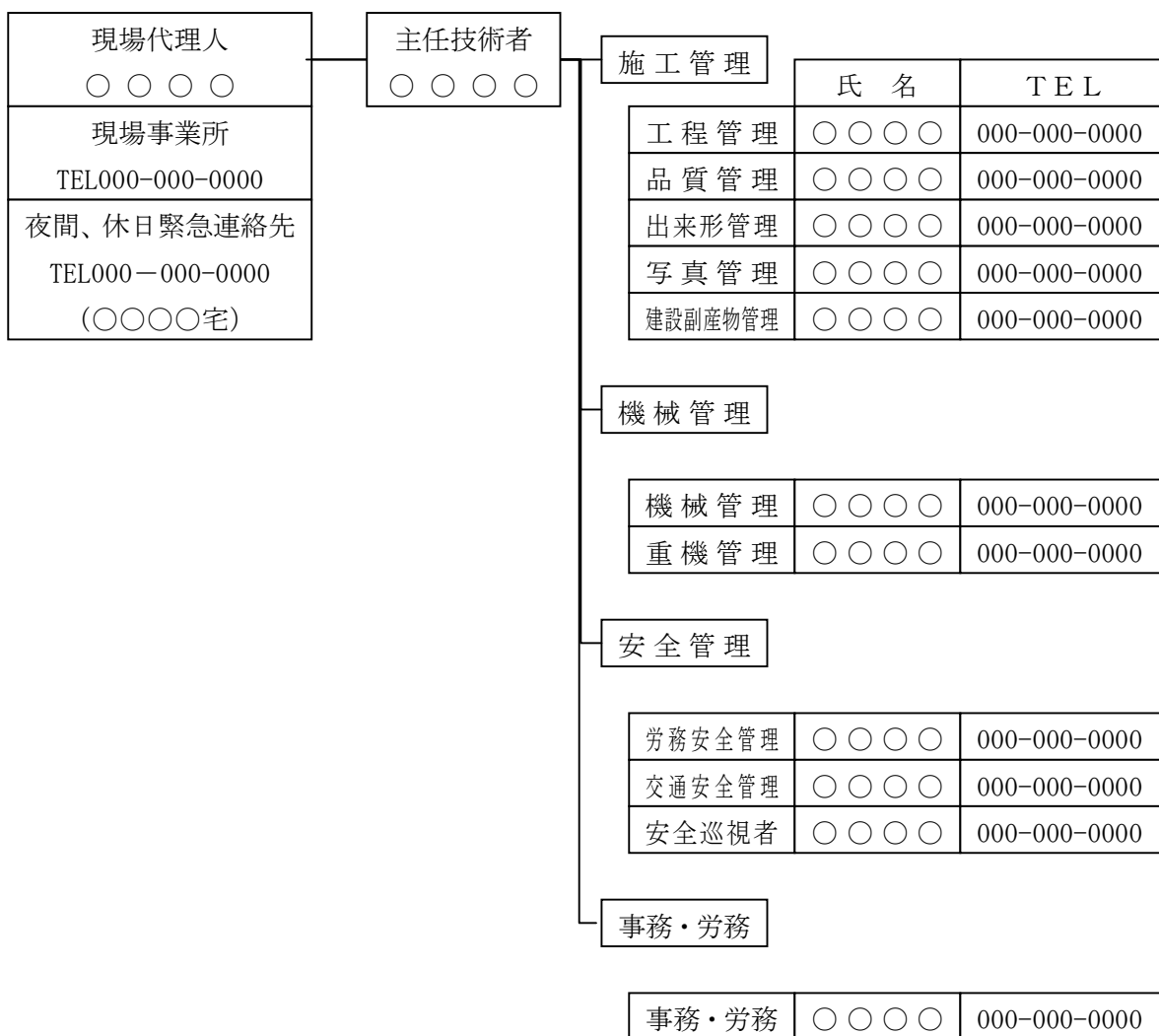


※応急処理又は維持工事等の当初工事計画が困難な工事内容については、実施工程表を省略できるものとする。
 ※実施工程表の作成は、工事に見合った手法を用いることができる。

5-5 現場組織表及び施工体系図

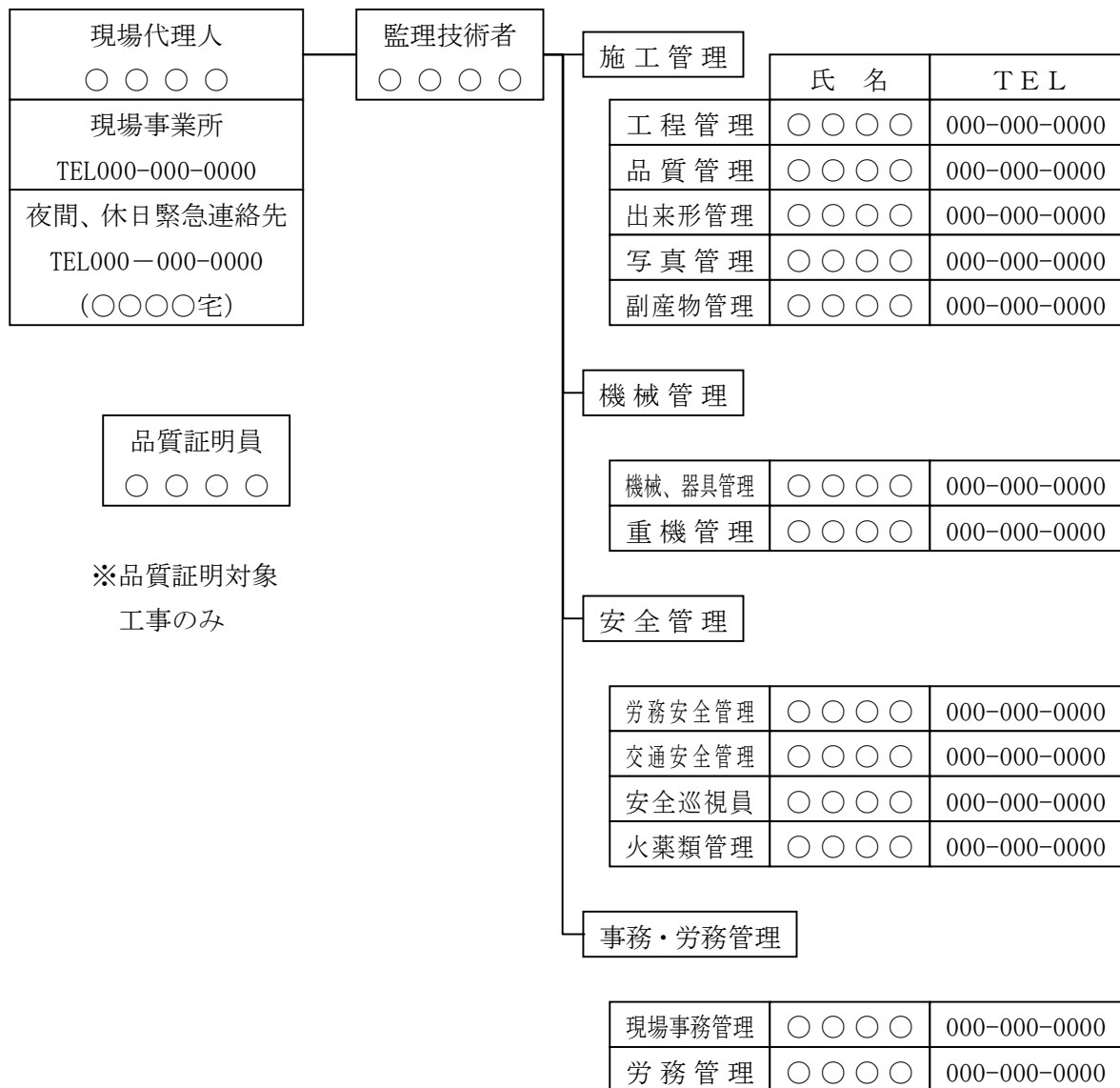
- ・ 工事に従事する構成員による現場組織表を作成する。
- ・ 現場代理人については、夜間、休日等の緊急連絡先を記入する。
- ・ 施工管理については、それぞれの担当区分及び担当者氏名等を記入する。
- ・ 監理技術者、専門技術者を置く場合は、その氏名等を記入する。
- ・ 品質証明（社内検査）対象工事は、品質証明員を記載する。

【作成例（1）】 現場組織表



【作成例(2)】

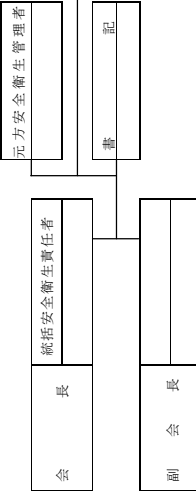
現場組織表



施工体系図（工事作業所災害防止協議会）

発注者名	年 月 日
工事名称	年 月 日

元請 負	
監 督 員 名	
監理技術者名	
専門技術者名	
担当工事 内 容	
専門技術者名	
担当工事 内 容	



会 社 名	年 月 日～年 月 日
安全衛生責任者	
主任技術者	
専門技術者	
担当工事 内 容	
工 事	
工 期	年 月 日～年 月 日

会 社 名	年 月 日～年 月 日
安全衛生責任者	
主任技術者	
専門技術者	
担当工事 内 容	
工 事	
工 期	年 月 日～年 月 日

会 社 名	年 月 日～年 月 日
安全衛生責任者	
主任技術者	
専門技術者	
担当工事 内 容	
工 事	
工 期	年 月 日～年 月 日

会 社 名	年 月 日～年 月 日
安全衛生責任者	
主任技術者	
専門技術者	
担当工事 内 容	
工 事	
工 期	年 月 日～年 月 日

会 社 名	年 月 日～年 月 日
安全衛生責任者	
主任技術者	
専門技術者	
担当工事 内 容	
工 事	
工 期	年 月 日～年 月 日

会 社 名	年 月 日～年 月 日
安全衛生責任者	
主任技術者	
専門技術者	
担当工事 内 容	
工 事	
工 期	年 月 日～年 月 日

会 社 名	年 月 日～年 月 日
安全衛生責任者	
主任技術者	
専門技術者	
担当工事 内 容	
工 事	
工 期	年 月 日～年 月 日

会 社 名	年 月 日～年 月 日
安全衛生責任者	
主任技術者	
専門技術者	
担当工事 内 容	
工 事	
工 期	年 月 日～年 月 日

会 社 名	年 月 日～年 月 日
安全衛生責任者	
主任技術者	
専門技術者	
担当工事 内 容	
工 事	
工 期	年 月 日～年 月 日

会 社 名	年 月 日～年 月 日
安全衛生責任者	
主任技術者	
専門技術者	
担当工事 内 容	
工 事	
工 期	年 月 日～年 月 日

会 社 名	年 月 日～年 月 日
安全衛生責任者	
主任技術者	
専門技術者	
担当工事 内 容	
工 事	
工 期	年 月 日～年 月 日

会 社 名	年 月 日～年 月 日
安全衛生責任者	
主任技術者	
専門技術者	
担当工事 内 容	
工 事	
工 期	年 月 日～年 月 日

※（社）全国建設業協会統一様式使用する。
（A3版）

5-6 指定機械

・工事に使用する設計図書で指定されている機械(騒音振動、排ガス規制等)又は、監督員が必要と認めた機械について作成する。

- ※1 騒音振動、排ガス規制等の指定以外に特殊な工法や現場条件により機械が指定される場合があるので、事前に監督員と協議すること。
- ※2 指定されていない機種については、実際に使用する機械を記載すること。
- ※3 運搬機械については、最大積載量を記載すること。

【作成例】

機 械 名	規 格	台数	使用工種	備 考
バックホウ	0.6 m ³	1	床堀	排ガス対策型
ブルドーザ	15 t	1	敷均し	排ガス対策型
バイブロハンマー	88 kw	1	鋼矢板打ち込み	排ガス対策型
バイブロ用ウォータージェット	電動式 90	1	〃	

5-7 主要資材

・工事に使用する指定材料及び主要資材、又は材料試験方法等について作成する。

【作成例】

品 名	規 格	予定数量	製造業者	品質証明	納 入 時 期			備 考
					〇月	〇月	〇月	
生コンクリート	18N/mm ²	95m ³	○生コン	試験成績表				
生コンクリート	21N/mm ²	300 m ³	○生コン	試験成績表				
鉄 筋	D13~D29	6.8 t	〇〇製鉄	シールド				
再生クラッシャーラン	RC0~40	50 m ³	〇〇採石	試験成績表				
ブロック	控 350	760 個	〇〇産業	試験成績表				

5-8 施工方法

(1) 工種^(注1) 毎の作業フロー図を記載し、各作業段階における①～⑤の該当項目について記述する。

- ① 工事箇所の作業環境（周辺の土地利用状況、自然環境、近接状況、埋設物、障害物等）について調査した結果
- ② 主要な工種の施工時期と降雨・出水・湧水・台風時期等の関連
- ③ 上記①・②から判断される施工実施上の留意事項及び施工方法の要点・制約条件（施工時期、作業時間、交通規制、自然保護等）・基準点・地下埋設物・地下障害物の防護方法
- ④ 制約条件及び埋設物・障害物防護の円滑な処理を行うための関係機関との協議・調整事項
- ⑤ 使用予定機械

★（注1）→記載対象工種は①～⑥を基準とする。

- ① 主要な工種
- ② 設計図書で指定された工法
- ③ 土木工事共通仕様書に記載されていない特殊工法
- ④ 施工条件明示項目で、その対応が必要とされている事項
- ⑤ 特殊な立地条件での施工や、関係機関及び第三者対応が必要とされる施工等
- ⑥ その他（境界杭の設置など重要なもの）

(2) 仮設備計画は①～⑤の項目について、仮設平面図・構造図等を用いて、具体的に記載する。

- ① 仮設備の構造・配置計画・安全を確認するための応力計算書及び安定計算書
- ② 仮設建物・材料・機械等の仮置場
- ③ プラント等の機械設備
- ④ 運搬路・仮排水・仮設電力
- ⑤ 工事標識・保安施設・防護施設

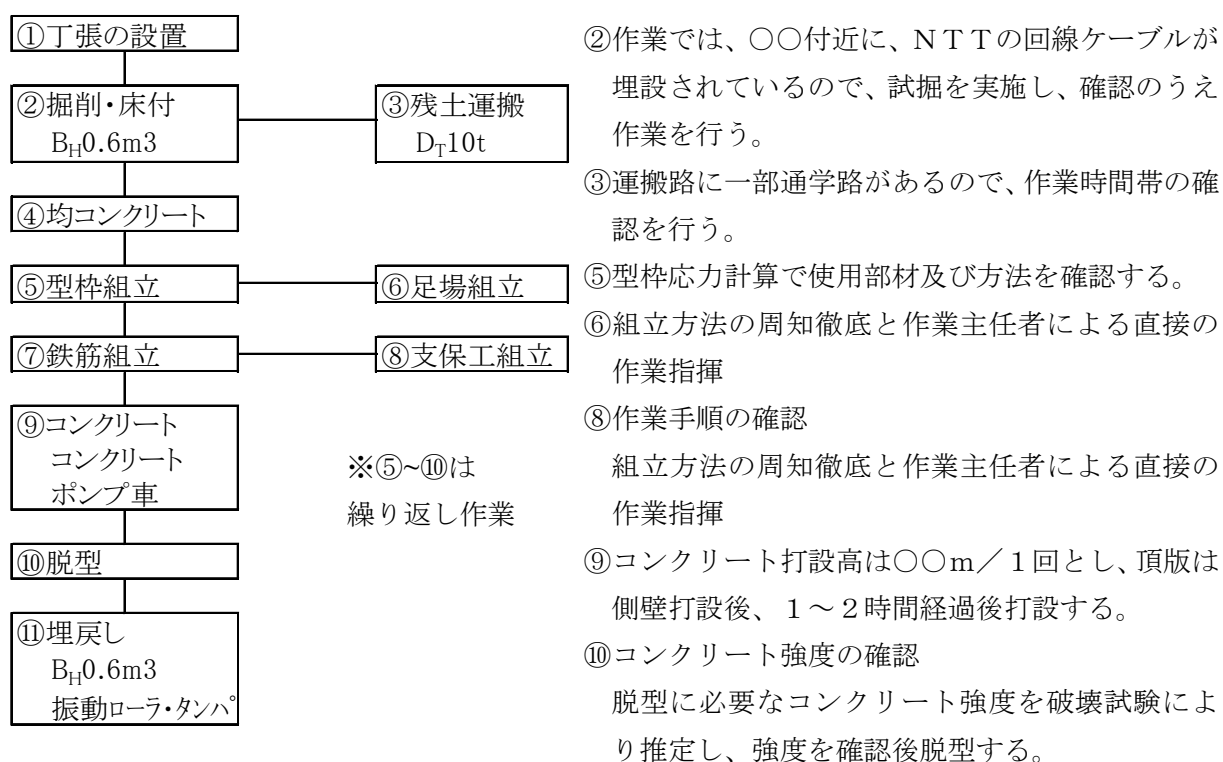
(3) 土木工事共通仕様書において、監督員の「指示」「承諾」を得て施工するもの、又は「協議」「報告」「提出」するもののうち、事前に記載できるもの、及び施工計画書に記載することとなっている事項について記載する。

【施工方法の作成例】

1 函渠作業フロー

基本事項→施工場所は既設水路であり、田植え時に用排水が流入し作業にならない。このため、函渠は、〇月までに完成しなければならない。〇月には着工し、計画工程に添って作業を実施する。

作業にあたっては、油脂類の流出により下流域の〇〇取水場に影響が無いよう十分注意する。



承諾等を要する事項及び予定内容

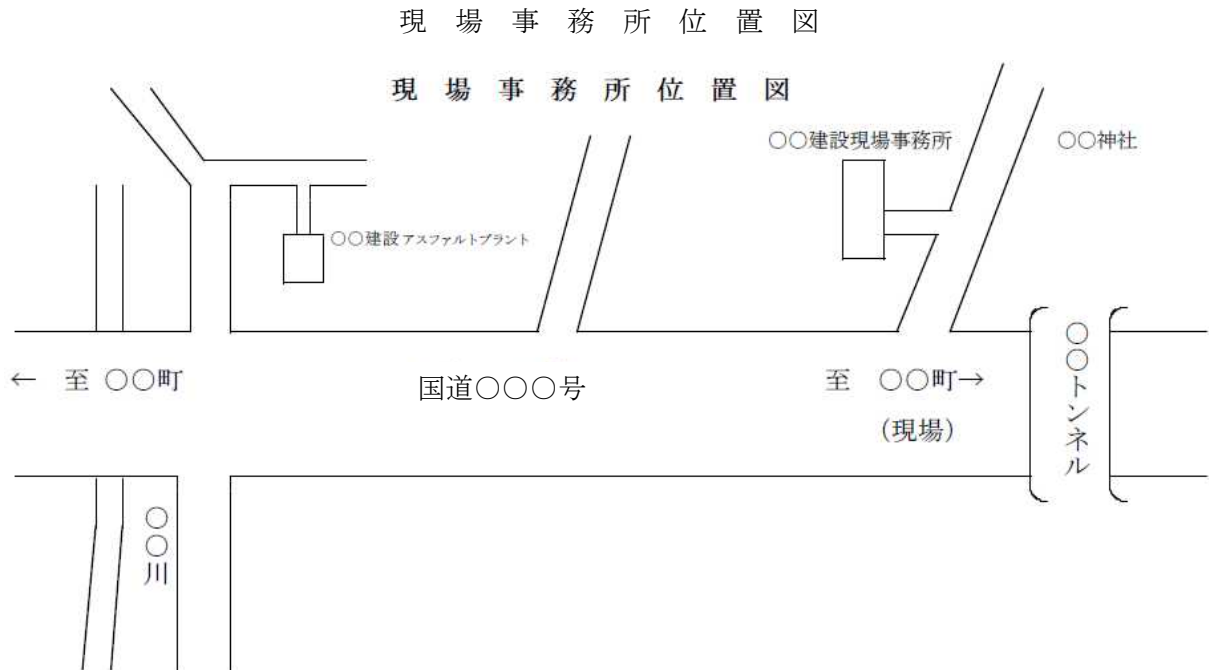
共通仕様書関係条項						節・条・項の名称	指示・承諾・協議 報告・提出の名称	予定している指示・承諾 協議・報告・提出の内容	記載事項 内容
編	章	節	条	項	号				
1	1	1	20	1		建設副産物	発生土を任意の仮設に使用	発生土の〇〇〇m ³ を〇〇に使用	承諾
						工事中の安全確保	指定された機械以外の使用		承諾
						コンクリートブロック工	伸縮目地の施工		協議
						路床盛土工	土取場の地形		提出

【仮設備計画の作成例】

1 仮設備計画

(1) 仮設建築物及び標示施設

倉庫・現場事務所は、〇〇町大字〇〇に社員宿舍1階建1棟、労務者宿舍2階建1棟、現場事務所1棟（TEL 〇〇-〇〇〇〇）、倉庫のプレハブを1棟設置する。



(2) 工事情報及び道路工事保安施設

土木工事現場における工事情報の提供や道路工事保安施設の設置については、「土木工事現場における標示施設等の設置基準」（平成18年9月11日付け技管第108号 栃木県土木部）及び「道路工事保安施設設置基準（平成18年10月18日付け技管第148号 栃木県土木部）を参照。

5-9 施工管理計画

1 工程管理計画

・計画工程に対する実施管理方法を記載する。

【作成例】

- ① 管理手法 ⇒ ネットワーク等により管理する。
- ② 日常管理 ⇒ 各種別又は細別毎の実施作業量を把握し、計画作業量を維持するため労務・機械等の配置を検討する。
- ③ 週間・月間管理 ⇒ 毎週月曜日・毎月3日に工事進捗率の確認を行う。
- ④ 進捗管理 ⇒ 工事開始より2ヶ月間は2週間に1回工程曲線を用いて管理を行い、計画に対し〇%の差が生じた場合は、フォローアップを実施する。又それ以降は、1ヵ月1回、同様の管理を実施する。

2 品質管理計画

・土木工事施工管理基準（栃木県県土整備部）の品質管理基準及び規格値を参照し、品質管理計画表を作成する。

【作成例】

工種	種別	試験項目	施工規模	試験頻度	試験回数	管理方法	摘要
路体盛土	盛土材料	土の締固め試験	5000 m ³	当初及び土質の変化時	1回	試験成績表	
	施工	現場密度の測定	5000 m ³	1000 m ³ /回	5回	試験成績表・成果一覧表	
路床盛土	盛土材料	土の締固め試験	700 m ³	当初及び土質の変化時	1回	試験成績表	
		C B R 試験	700 m ³	〃	1回	〃	
	施工	現場密度の測定	700 m ³	500 m ³ /回但し500 m ³ 未満3回	3回	試験成績表・成果一覧表	(注1)
		ブルーローリング	700 m ³	全幅、全区間	随時		
下層路盤工	路盤材料 (クラッシュラン)	修正C B R 試験 ふるい分け試験 土の液性限界・塑性限界試験	400 m ³	施工前及び材料変更時	1回	試験成績表	
	施工	現場密度の測定	2680 m ²	1000 m ² /回	3回	試験成績表・成果一覧表	
		ブルーローリング	2680 m ²	全幅、全区間	随時		
函渠工	コンクリート 21-8-20	圧縮強度試験	500 m ³	150 m ³ /回、及び荷下ろし時に変化があった時	3回	試験成績表・成果一覧表	
		スランプ試験					
		空気圧量測定					
		塩化物総量規制	500 m ³	150 m ³ /回、及び荷下ろし時に変化があった時	3回	試験成績表	

(注1) 試験基準では、「500 m³につき1回の割合で行う。但し、500 m³未満の工事は1工事当たり3回以上」とあり、最低3回の測定を必要としていることから1500 m³未満の工事では測定回数を3回以上とする。

(注2) 現場密度の測定位置については、監督員と協議すること。

(注3) 品質管理図表については、5点未満は省略できる。(ただし、写真等で確認できること。)

3 出来形管理

・土木工事施工管理基準（栃木県県土整備部）の出来形管理基準及び規格基準値を参照し、計画表を作成する。

【作成例】

種別	細別	管理項目	管理方法	測定基準 ・箇所	摘要
土工	路体盛り土工	基準高・ 法長・幅	出来形管理図表・出来形展開図	40mに一ヶ所 No.20 No.21 No.22 No.23 合計4ヶ所	
	法面整形工	厚さ	出来形管理図表		
コンクリートブロック積	砕石基礎工	幅・厚さ 延長	出来形管理図表	40mに一ヶ所 No.10 No.11 No.12 No.13 No.14 合計5ヶ所	
	コンクリート基礎	幅・厚さ 基準高	出来形管理図表		
		延長	出来形展開図		
	胴込・裏込 コンクリート 裏込砕石	厚さ	出来形管理図表		
コンクリート ブロック積	基準高・ 法長・延長	出来形管理図表・出来形展開図			
カルバート工	砕石基礎工	幅・厚さ 延長	出来形管理図表	両端・施工継 手及び図面の 寸法表示箇所	
	均し コンクリート	幅・厚さ 延長	出来形管理図表		
	躯体 コンクリート	基準高・厚さ 幅・高さ 延長	出来形管理図表		
管渠型側溝	砕石基礎工	幅・厚さ 延長	出来形管理図表	40mに一ヶ所 No.10 No.11 No.12 No.13 No.14 No.15 合計6ヶ所	
		基準高	出来形管理図表		
	側溝本体	延長	出来形管理図表・出来形展開図		

(注1) 舗装工のコア採取位置については、監督員と協議すること。

(注2) 出来型管理図表については、5点未満は省略できる。(ただし、写真等で確認できること。)

4 写真管理

・栃木県土木工事共通仕様書の栃木県土木工事写真管理基準（案）を参照し、計画表を作成する。

【作成例】

・総合撮影計画

撮影区分	撮影項目
着工前全景写真	・ 起点、終点、正面より撮影
工事進捗状況写真	・ 起点、終点、正面を月末に撮影
安全管理写真	・ 別紙計画表
品質管理写真	・ 別紙計画表
出来型管理写真	・ 別紙計画表
使用材料写真	・ 鋼管杭（本数、断面寸法、長さ）
仮設物写真	・ 事務所、倉庫、休憩室
産業廃棄物処理状況写真	・ コンクリート殻、アスファルト殻等
災害写真	・ 被災状況及び被災規模等
完成写真	・ 起点、終点、正面より撮影

・安全管理写真計画表

各種標識類の設置状況	交通整理員の交通整理状況	イメージアップ 安全関係写真
各種保安施設の設置状況	機械器具点検状況写真	
安全訓練等の実施状況	安全パトロール状況写真	

・品質管理撮影計画表

工種	種別	試験項目	撮影箇所	撮影回数	撮影頻度	摘要
路体盛土	盛土材料	土の締固め試験	〇〇試験室	1回	土質毎1回	
	施工	現場密度の測定	No.21	1回	土質毎1回	
路床盛土	盛土材料	土の締固め試験	〇〇試験室	1回	土質毎1回	
		C B R 試験	〃	1回	土質毎1回	
	施工	現場密度の測定	〃	1回	土質毎1回	
		プルーフローリング	全区間試験状況	1回	土質毎1回	
下層路盤工	施工	締固め密度の測定	No.25	1回	路盤毎1回	
		プルーフローリング	全区間試験状況	1回	路盤毎1回	
カルバート工	コンクリート 21-8-25	圧縮強度試験	函渠躯体1週・4週	1回	コンクリートの種類毎1回	
		スランプ試験	函渠躯体打設時			
		空気量測定				
		塩化物総量規制				

・出来形管理撮影計画表

工種	種別	撮影項目	撮影個所	撮影時期	撮影回数	撮影頻度	摘要
路体盛土	敷均し 締固め	巻出し厚さ	No.21	巻出し時	1回	200mに1回	
		締固め状況	No.21	施工中	1回	転圧機械が変わる毎に1回	
		法長・幅	No.21	施工後	1回	200mに1回	
路床盛土	敷均し 締固め	巻出し厚さ	No.23	巻出し時	1回	200mに1回	
		締固め状況	No.23	施工中	1回	転圧機械が変わる毎に1回	
		法長・幅	No.23	施工後	1回	200mに1回	
下層路盤工	敷均し	敷均し厚さ・転圧状況	No.21	施工中	1回	各層毎200mに1回	
		修正状況	No.21	修正後	1回	各層毎200mに1回	
	締固め	仕上り厚さ	No.21	修正後	1回	各層毎200mに1回	
		仕上り幅	No.21No.23	修正後	2回	各層毎40mに1回	
カルバート工	基礎砕石	幅・厚さ	No.21+8	施工後	1回	40mに1回	
	均し コンクリート	幅・厚さ	No.21+8	施工後	1回	40mに1回	
	躯体 コンクリート	鉄筋位置間隔・継手 寸法・かぶり寸法	No.21+8	組立後	1回	打設ロット毎に1回	
		養生状況	No.21+8	養生時	1回	養生方法毎に1回	
		幅・高さ・厚さ	No.21+8	型枠解体後	1回	設計図書の寸法表示箇所毎に1回	

5 段階確認

・栃木県土木工事共通仕様書第3編共通編1-1-6の6. 段階確認(表1-1)を参照し、計画表を作成する。

【作成例】

段階確認計画表

種別	細別	確認時期	施工予定時期	記事
矢板工	鋼矢板	打込み時	○月○日～○月○日	
既製杭工	PCパイプ (中掘)	打込み時	○月○日～○月○日	
		掘削完了時	○月○日～○月○日	

6 品質証明(社内検査):設計図書で品質証明の対象工事と明示された場合

・栃木県土木工事共通仕様書第3編共通編1-1-8(品質証明)を参照し、計画表を作成する。

【作成例】 品質証明計画表（出来形・品質）

（出来形）

種 別	細 別	管 理 項 目	管理箇所数	品質確認箇所数
土 工	路 体 盛 土	基準高・法長・幅	4箇所	2箇所
	法 面 整 形 工	法長（面積）・厚さ	4箇所	2箇所
コンクリート ブ ロ ッ ク 積	砕 石 基 礎 工	幅・高さ・延長	5箇所	3箇所
	コンクリート基礎	幅・高さ・基準高	5箇所	3箇所
		延長		
	胴込・裏込コンクリート 裏 込 砕 石	厚さ	5箇所	3箇所
コンクリートブロック積	基準高・法長（面積）	5箇所	3箇所	
函 渠 工	砕 石 基 礎 工	幅・厚さ・延長	函渠両端 継手個所	函渠右端 継手個所

（品質）

工種	種 別	試 験 項 目	管 理 回 数	品質確認回数
函 渠 工	コンクリート (21-8-25)	圧縮強度試験	3回	2回
		スランプ試験		

5-10 安全管理

- (1) 建設工事における安全計画を立案するための基本となる法律及び栃木県土木工事共通仕様書等で示されている指針は下記のとおりである。
- ① 労働安全衛生法
 - ② 土木工事安全施工技術指針
 - ③ 建設機械施工安全技術指針
 - ④ 建設工事公衆災害防止対策要綱（土木工事編）
- (2) 安全管理計画を立案するための検討項目は下記のとおりである。ただし下記項目は標準的なものであり、その他必要項目は法令・指針等を活用し詳細な計画を行う。
- ① 安全衛生管理体制
安全な工事を進めるための、責任者・管理者・作業主任者等を選任し、労働者の安全と健康を確保するための責任体制を明確にする。
 - ② 労働者の危険又は健康障害を防止するための対策
 - (イ) 機械・器具・爆発物による危険防止
 - (ロ) 掘削、伐木作業等から生ずる危険防止
 - (ハ) 通路・床面・階段等の保全
 - (ニ) 労働者の作業行動から生ずる災害を防止するための対策
 - (ホ) 労働災害発生の急迫した危険があるときの処置
 - ③ 労働者の就業にあたっての対策
 - (イ) 安全衛生教育の方法
 - (ロ) 就業制限に関する処置
 - (ハ) 中高年令者等についての処置
 - ④ 第三者施設に対する安全対策
家屋・道路・河川・鉄道・ガス・水道・電気・電話・地下構造物等に近接して工事を行う場合の処置
 - ⑤ 爆発及び火災防止対策
 - (イ) 爆発物等の危険物を備蓄し、使用する場合の処置
 - (ロ) 野焼きを行う場合の処置
 - (ハ) 火薬類を使用し工事を施工する場合の処置
 - (ニ) 使用人等の喫煙・火気使用の処置
 - (ホ) ガソリン・塗料等の可燃物を使用する場合の処置
 - (ハ) 火薬庫等を現地に設置する場合の処置
 - ⑥ 工事車両・重機類の事故防止対策
 - ⑦ 足場・型枠支保工等仮設の安全対策
 - ⑧ 大雨・強風等の異常気象時の防災対策
 - ⑨ 工事現場が隣接し又は同一場所において別途工事がある場合の対策
 - ⑩ 工事安全訓練の実施方法・頻度等

⑪ 工事安全巡視の実施方法



*安全衛生管理計画作成の留意点

- ① 組織図は一般的な組織を示したものである。専任又は複数の管理者選任、及び救護技術管理者等の選任については、労働安全衛生法、労働安全衛生規則等関係法令を参照すること。
- ② 組織表には、統括安全衛生責任者、元方安全衛生管理者、安全衛生責任者、安全巡視体制及び保安要員等明記する。
- ③ 作業主任者一覧表を別途記載する。

(参考)

安全委員会及び衛生委員会を設置し、安全委員会及び衛生委員会の行わなければならない事項は下記のとおりである。

- ① 安全委員会
 - (イ) 労働者の危険防止対策
 - (ロ) 安全に係る労働災害の原因、再発防止対策
 - (ハ) 上記の他、労働者の危険防止に関する重要事項
- ② 衛生委員会
 - (イ) 労働者の健康障害防止
 - (ロ) 健康の保持増進を図るための基本対策
 - (ハ) 労働災害の原因、再発防止対策で、衛生に係るもの
 - (ニ) 上記の他、労働者の健康障害の防止及び健康保持増進に関する重要事項

【安全管理の作成例】

1 安全衛生教育

当現場に労働者を新規雇い入れた場合又は作業内容を変更した場合は、次の項目に対し、労務安全管理により教育を行う。教育終了後、作業に従事した者について、安全な行動が定着するまで、巡視等で重点チェックし、危険な行動が見られた場合はその場で指摘するとともに、安全訓練等でその評価を発表する。

- ① バイブレーター、タンパの取扱方法
- ② ヘルメットの使用方法
- ③ 安全帯の装着及び使用方法
- ④ 作業手順
- ⑤ 現場の整理整頓の励行
- ⑥ 現場組織の説明・緊急時連絡方法
- ⑦ 安全作業に対する意識の定着

2 安全管理活動

実施項目	場 所	参加予定者	内 容	頻 度
朝 礼	現 場	現場作業従事者	当日の作業の手順及び体操	毎 日
K Y 活 動	現 場	現場作業従事者	当日の危険予知及び安全作業に関する事項	毎 日
安全会議	現 場	現場作業従事者	日々の安全活動に対する反省・評価	各 週
安全訓練	現 場	別 紙 予 定 表 参 照 (P26 参照)		
安全巡視	現 場	〇 〇 巡 視 員	現場内及び周辺の監視・連絡による安全確保	毎 日

* 工事着手後、作業員全員の参加により、月当たり半日以上の時間を割り当て、定期的に安全に関する研修、訓練等を実施する。(栃木県土木工事共通仕様書第1編 1-1-26 「工事中の安全確保」より抜粋)

3 工事関係者連絡協議会の設定

当工事現場は別途〇件の工事が発注されており、請負業者間の安全施工を確保するため連絡会議を設置する。現在は会議の組織等詳細な運営方法は、決定していないが、決定しだい報告する。

4 作業主任者

- ① 作業主任者を選任した作業については、それぞれ主任者が該当作業の直接指揮を行う。
- ② 選任した作業主任者は、現場入口に氏名・実施する項目等を掲示し、関係者に周知徹底する。

5 掘削作業の安全対策

- ① 機械の旋回範囲内への立入禁止の徹底
- ② 後進する場合は、誘導員の指示を受ける
- ③ 荷重及びエンジンをかけたまま運転席を離れない
- ④ 掘削作業では、路肩付近で作業を行わなければならないため、必ず誘導員を配置する。

6 地下埋設物への対応

- ① NTTの回線ケーブルが横断しているのでNTT職員立会のうえ試掘を行い、ケーブルの高さを確認のうえ床掘作業を実施する。又、ケーブル周辺は機械掘削を行わず、〇〇作業主任者指揮のうえ人力で作業を実施する。

【安全管理組織表の作成例】

統括安全衛生責任者 〇〇 〇〇	安全衛生責任者	〇〇 〇〇	TEL 000-000-0000
		〇〇 〇〇	TEL 000-000-0000
元方安全衛生管理者 〇〇 〇〇	労務安全管理者	〇〇 〇〇	TEL 000-000-0000
	車両運行管理者	〇〇 〇〇	TEL 000-000-0000
	重機安全管理者	〇〇 〇〇	TEL 000-000-0000
	安全巡視員	〇〇 〇〇	TEL 000-000-0000

【作業主任者一覧表作成例】

資格名	氏名	会社名	取得年月日	交付番号
一級土木施工管理技士	〇〇 〇〇	〇〇建設		
ガス溶接				
型枠支保工作業主任者				
玉掛作業主任者				
アーク溶接				
移動式クレーン				

安全訓練の予定計画表

【作成例】

月 日	時間	場 所	内 容	詳 細	講 師	備 考
○月○日	13:00 ～ 17:00	現場事業所 現場周辺	① 本工事内容等の周知徹底並びに予想される事故防止対策 ② 災害防止対策予行演習	① 作業内容→土留工 (鋼矢板打設) 鋼矢板打設作業の予想される危険及び事故防止対策を参加者全員で検討し、安全作業に対する意識を高める。 ② 「雨で法面が崩壊した状況を想定」 ・巡視経路の確認(実際の場合の車両・徒歩巡視の把握) ・連絡方法の確認(無線機・携帯電話の感度) ・立入禁止処置の実施方法の確認 ・問題点の整理・防災実施方法の確認	○○ ○○	
○月○日	13:00 ～ 17:00	現場事業所	① 前月の反省と評価 ② 工事進捗状況の説明 ③ ビデオ上映	① 労働安全管理者の前月の作業行動に対する評価 ・評価に対する作業者の感想 ・今月の安全作業の目標を参加者全員で検討し決定する。 ② 主任技術者から進捗状況の説明及び今後の進捗予定の説明 ・今後の作業から予想される危険と対策の検討 ③ 危険予知活動紹介	○○ ○○	
○月○日	13:00 ～ 17:00	現場事業所	① 前月の反省と評価 ② 参加者から現場に対する要望	① 車両運行管理者の前月の作業行動に対する評価 ・評価に対する作業者の感想 ・今月の安全作業の目標を参加者全員で検討し決定する。 ② 作業者から要望を聞いて、できるものから実施するよう調製を行う。 ・一人ひとりの声から、見逃している危険を洗いだし、今後の対策の参考とする。	○○ ○○	

工 事 事 故 報 告 書

平成 年 月 日

様

住所
受注者
氏名 印

下記のとおり事故が発生したので報告します。

記

工 事 名	
工 事 場 所	
事 故 件 名	
事 故 の 発 生 日 時	平成 年 月 日 午前・午後 時 分
事 故 の 発 生 場 所	
事故発生 の 建物 及び 設備	
事 故 の 状 況 等	

(A 4 版)

3 防災対策

- ① 梅雨期の気象状況は常に入手し、緊急事態に対応できるようにする。
- ② 緊急事態に際して即応できるように、次の救命用具等を常に整備しておくとともに、〇〇災害対策員が定期的にその数量を確認し、不足が生じた場合は、補給を行う。
 - (イ) 救命胴衣 〇枚
 - (ロ) 救命浮輪 〇個
 - (ハ) ロープ 〇〇〇m
 - (ニ) 土のう 〇〇〇〇袋
 - (ホ) かけや 〇本
 - (ヘ) スコップ 〇〇本
 - (ト) 杭（1.5m） 〇〇本
- ③ 大雨により緊急事態の発生が予想される場合は、別紙「緊急時の体制及び対応」に記載している「防災対策組織表」の災害対策員（2名）が、巡回点検を実施する。
- ④ 災害対策責任者は、巡視員の報告を整理し、発注者等との連絡調整を適宜行い、周辺状況の把握に務める。
- ⑤ 危険箇所を発見した場合は、立入禁止等の防護処置を実施する。
- ⑥ 緊急事態に際し、巡視員等の危険防止及び円滑な連絡体制を確保するために、〇月の安全訓練で、予行演習を実施する。
- ⑦ 実際に緊急事態が発生した後、災害対策の実施状況を分析・評価し、災害対策の充実した取り組みに発展される。

5-12 交通管理

・栃木県土木工事共通仕様書第1編1-1-32「交通安全管理」に、交通処理及び対策が示されており、下記該当項目について対策を検討する。ただし、下記項目は標準的なものであり、その他必要な項目は省令・指針等を活用し、詳細な計画を行う。

- ① 工事用運搬路として、一般道路を使用するときの対策及び歩行者等第三者に対する対策
- ② 工事用資材・機械を輸送する時の輸送経路・期間・方法・輸送担当者・交通誘導員の配置・標識及び安全施設の設置場所。輸送経路及び配置・設置場所等は、平面図・概略図等で具体的に記載する。
- ③ 一般道路に係る工事の安全対策
- ④ 指定された工事用道路の新設・改良・維持管理・補修及び使用方法
- ⑤ 工事用道路を共有するときの対策
- ⑥ 一般道路上の材料又は設備等の保管・整理方法
- ⑦ 過積載防止対策
- ⑧ 迂回路を設ける場合には、迂回路の図面及び安全設備、案内標識の配置図並びに交通誘導員等の配置について記載する。

【作成例】

1 土運搬(ダンプトラック 10t)に対する安全対策

- ① 土取場から現場までの運搬経路は別紙図面に添付。(省略)
- ② 運搬路の一部に〇〇農免道路を使用するため、住民に工事の概要・安全対策を説明し、十分に打合せを行う。
- ③ 運搬時間は、AM10:00～PM4:00 までとし、通勤・通学時間帯の運搬作業は行わない。
- ④ 制限速度は、運搬路全線 20 km/hとし、運転手に速度厳守を徹底する。
- ⑤ 一般車両及び歩行者の通行については、安全の確保を最優先とするよう、交通誘導員及び運転手に徹底する。

2 車両出入口及び交差点の安全対策

- ① 土取場出入口及び出入口から 1.5 km先の見通しの悪いカーブ付近に、φ 600m/mのカーブミラーを設置する。

3 交通誘導員の配置計画

- ① 土取場出入口及び現場出入口に交通誘導員1名を配置する。
- ② 交通誘導員には、笛、手旗を携帯させ一般車両・歩行者の安全確保に努めさせる。

4 運搬路の維持補修

- ① 運搬路の未舗装部については、1日2回(AM10:00～PM2:00)散水車により散水を行う。
- ② 運搬路の補修は、必要に応じ補修材を散布し補修する。又未舗装部は1週間に1回路面の不陸整正をモーターグレーダー(W=2.4m)により行う。
- ③ 運搬作業中は、1日2回車両運行管理者による巡視を実施する。
- ④ 清掃作業は、土捨場・現場出入口に清掃員を配置し清掃するとともに運搬路に土砂が落下した場合は、速やかに取り除き清掃する。
- ⑤ 防塵処理は、散水により実施するが、散水により処理できない個所については、必要に応じ塩化カルシウムを散布し実施する。

5 車両運行に関する安全対策

- ① 現場内の運搬路は、常に走行に支障のないよう補修し、〇〇車両運行管理者が路面状況の確認を行う。
- ② 車両への過積載防止を徹底するため、車両運転手及び重機運転手に、安全訓練・安全会議等で、その主旨の教育を実施する。又、資材搬入時の過積載のチェックを行うと同時に、納入業者・下請業者にもその趣旨の周知徹底を図る。
- ③ 工事車両の作業実施日は、〇〇車両運行管理者の責任のもとに、道路交通法の遵守・運転手の体調のチェック等朝礼時に確認する。

5-13 環境対策

工事現場の生活環境の保全と、円滑な工事施工を計ることを目的として建設工事に伴う騒音振動対策技術指針・関係法令・仕様書の規定を遵守のうえ、下記の項目について対策を検討する。

- ① 騒音・振動対策
- ② 水質汚濁
- ③ ゴミ・ほこりの対策
- ④ 事業損失防止対策（家屋調査・地下水観測等）
- ⑤ その他必要事項

【作成例】

- 1 現場周辺調査の結果、周辺に井戸を生活用水としている家屋が5件あることが判明し、場内の水替え作業により井戸枯れを起こす可能性があり、事前調査を実施する。
 - ① 調査の目的 ⇒ 井戸枯れ発生時に即応し、住民の日常生活を確保する。
 - ② 調査方法 ⇒ 水替え作業前の水位・水深・水質を測定する。
 - ③ 追跡調査 ⇒ 水替え作業開始後、毎日午前・午後1回水位を測定する。
 - ④ 対応 ⇒ 水位に変動が見られた場合は、監督員に報告し対応を協議するとともに、水道への切り替えがいつでも行えるように体制を整えておく。
 - ⑤ 調査に当たっては上記事項を住民に説明し、了解を得たのち実施する。
- 2 重機への給油作業及びグリース補給の際に、流失事故を起こさないように指導し徹底させる。
- 3 生コンクリート車の洗浄は自社(生コン会社)に持ち帰り実施するように指導し徹底させる。
- 4 現場内及び運搬路等の防塵対策として、必要に応じ散水車にて散水を実施し、又散水ができない個所については、塩化カルシウムの散布を行う。この時、過度の散水等により住民の迷惑とならないよう、路面の状況を車両運行管理者がパトロールし、常に把握する。
- 5 重機の空ふかし・バケットのゆさぶり・ダンプトラックの急発進、急停車等による騒音・振動は絶対しないよう、指導し徹底させる。
- 6 以上2～5項について、朝礼・安全訓練等で指導を行うとともに、実施状況を把握し、周辺地域への影響を最小限とするよう努力する。

5-14 現場作業環境の整備

・現場作業環境の整備に関し、下記項目について対策を検討する。

- ① 仮設関係
- ② 安全関係
- ③ 営繕関係
- ④ その他必要事項

【作成例】

項目	目的	実施内容	実施場所
仮設関係	工事のPR	① 完成予想図 ② フラワーポット	現場出入口付近 〃
安全関係	作業環境の美化	① デザインフェンスの設置 ② 照明施設の設置	現場出入口付近 〃
営繕関係	作業環境の改善	① 更衣室の設置 ② トイレの水洗化	現場事務所・休憩所
イメージアップ対策の内容	建設事業の広報活動	①完成予想図 ②工法説明図 ③見学会等の開催	現場出入口付近

※イメージアップ対策の内容は、イメージアップ経費を計上された場合

5-15 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法

・再生資源利用の促進に関する法律に基づき、下記事項について計画する。

- ① 再生資源利用計画書
- ② 再生資源利用促進計画書
- ③ 処理委託業者名（建設廃棄物を運搬（委託）・処分を行う場合）
- ④ マニフェスト使用の徹底
- ⑤ 社内の管理体制（建設副産物対策の責任者の明確化）

【作成例】

別紙「再生資源利用計画書」：P 3 4

「再生資源利用促進計画書」：P 3 5 参照

5-16 その他

・その他重要な事項について、必要により記載する。

【作成例】

- ・官公署への手続き
- ・地元への周知
- ・休日に関する事項 等

様式1 再生資源利用実施書 一建設資材搬入工事用一

ー「建設リサイクルガイドライン」、「建設リサイクル法第18条再生資源化報告」、「H20建設副産物実態調査」対応版ー

1.工事概要		加盟団体名 S1000.各県建設業協会		記入年月日 平成 20年 10月 1日	
発注者	090504.栃木県 〇〇土木事務所	請負会社名 〇〇建設	建設業許可 〇〇.栃木県知事1ー般1234号	TEL 〇2888-8888-012	工事責任者 〇〇 〇
発注機関名	〇〇土木事務所	建設業許可 〇〇.栃木県知事1ー般1234号	TEL 〇2888-8888-012	FAX 〇2888-8888-012	調査票記入者 〇〇 〇
		会社所在地 栃木県〇〇郡〇〇町大字△△1234ー1			

工事名	道路災害防除工事 〇〇△△線その1 (道路保全)	請負金額	¥12,600,000 (税込)	建設面積	m ²	階数(地上)	階
工事施工場所	08343.栃木県 〇〇郡 〇〇町	工期(開始)	平成 20年 10月 1日	延床面積	m ²	階数(地下)	階
(補充等)	〇〇沢	工期(終了)	平成 21年 1月 28日	構造		用途	
工事概要等	ブロッコ積工 227.0m ²						

2.建設資材利用実施

分類	建設資材(新材を含む全体の利用状況)		左記のうち、再生資材の利用状況 (再生資材を利用した場合に記入して下さい)				再生資源材利用率(B)
	小分類	規格	再生資材の供給元施設、工事等の名称	供給元種類	施工条件内容	再生資材の名称	
コンクリート	8.他	18-8-25BB	〇〇〇生コン	6.他	2.指示なし	08344.栃木県 〇〇郡 〇〇町〇〇234-5	7.他 0.0 (t)
	8.他	18-8-40BB	〇〇〇生コン	6.他	2.指示なし	08344.栃木県 〇〇郡 〇〇町〇〇234-5	7.他 0.0 (t)
	合計						0.0 (t)
特定建設資材	コンクリート及び鉄から成る建設資材						
	木材						
	合計						
アスファルト混合物							
	合計						
土砂	2.二種		道路災害防除工事 〇〇〇線その1 (道路保全) 1.現場内	1.指示あり		08343.栃木県 〇〇郡 〇〇町〇〇	2.二種 85.0 (t)
	合計						85.0 (t)
砕石	1.クラ	RC-40	〇〇工業所	4.再資源	1.指示あり	08342.栃木県 〇〇郡 〇〇町〇〇1234	1.再クラ 5.7 (t)
	1.クラ	RC-80	〇〇工業所	4.再資源	1.指示あり	08342.栃木県 〇〇郡 〇〇町〇〇1234	1.再クラ 65.0 (t)
	合計						70.7 (t)
その他建設資材	塩化ビニル管・継手						
	石膏ボード						
	合計						
その他の建設資材							
	合計						

様式2 再生資源利用促進実施書 ー建設副産物搬出工事用ー

2.建設副産物搬出実施

建設副産物の種類 場外搬出時の 性状	①発生量 (割制等) =②+③+④		現場内利用		減量化		現場外搬出について					再生資源利用 促進率 (②・③・⑤) /①(%)	
	用途	②利用量 うち現場内 処分	③減量化 減量法	搬出先 名 称	区分	搬出先 場 所 住 所	運搬距離	搬出先 の種類	④現場外搬出量	うち現場内改良分	⑤再生資源 利用促進量		
コンクリート塊		(ト)		搬出先			km		(ト)		(ト)		
建築廃材 (生コン等)など不燃材料 が混入しているもの		(ト)		搬出先			km		(ト)		(ト)		(ト)
アスファルト・ コンクリート塊		(ト)		搬出先			km		(ト)		(ト)		(ト)
その他がれき類		(ト)		搬出先			km		(ト)		(ト)		(ト)
建設発生不燃 (立木、換気材などが廃 棄物とつたもの)	2.7	(ト)		搬出先 ※ CO 課	2.民間 1.A指定	25 km 5.中間合外			2.7	(ト)	2.7	100.0%	(ト)
建設汚泥		(ト)		搬出先			km		(ト)		(ト)		(ト)
金属くず		(ト)		搬出先			km		(ト)		(ト)		(ト)
炭質化ビニル管 ・継手		(kg)		搬出先			km		(kg)		(kg)		(kg)
廃プラスチック (塩化ビニル管・ 継手を除く)		(ト)		搬出先			km		(ト)		(ト)		(ト)
廃石膏ボード		(ト)		搬出先			km		(ト)		(ト)		(ト)
紙くず		(ト)		搬出先			km		(ト)		(ト)		(ト)
アスベスト (霰粒性)		(ト)		搬出先			km		(ト)		(ト)		(ト)
その他の分別 された廃棄物		(ト)		搬出先			km		(ト)		(ト)		(ト)
混合状態の廃棄物 (建設混雑廃棄物)		(ト)		搬出先			km		(ト)		(ト)		(ト)
第一種 建設発土		(t/m ³)		搬出先			km		(t/m ³)		(t/m ³)		(t/m ³)
第二種 建設発土	112.0	(t/m ³)	0.0	搬出先 ※CO 課	2.民間 2.B指定	4 km 14.受人(民)			27.0	(t/m ³)	0.0	75.9%	(t/m ³)
第三種 建設発土		(t/m ³)		搬出先			km		(t/m ³)		(t/m ³)		(t/m ³)
第四種 建設発土		(t/m ³)		搬出先			km		(t/m ³)		(t/m ³)		(t/m ³)
発土 (建設汚泥を除く)		(t/m ³)		搬出先			km		(t/m ³)		(t/m ³)		(t/m ³)
合計	112.0	(t/m ³)	0.0						27.0	(t/m ³)	0.0	75.9%	(t/m ³)

別紙ハ 現場事前調査チェックリストの例

地形	工事用地、センター杭、幅杭、高低差、地表勾配、切取高、危険防止箇所、設計図書と現地の相違点、土取場、骨材、土捨場、材料貯蔵場、排水
地質	粒度、締固め特性、自然含水比、硬さ、混有物、岩質、亀裂、断層、地層、落石、地滑り、各間の堆積層、地盤の強さ、支持力、トラフィカビリティ、地下水、伏流水、湧水、既存の資料柱状図、近接地の例、古老の意見
気象	降雨量、降雨日数、降雨開始時期、積雪量、融雪期、気温、日照、風向、風力、台風
流況	各季節毎（梅雨期、台風期、冬期、融雪期）の低水位と高水位、平水位、洪水（洪水位、洪水量、危険水位、出水時間、ひん度などについて過去の記録を調査、また本川より支川への逆流、たん水時間、排水ポンプ能力）、付近の聞き込み
電力水	工事用電源（電圧、容量、引込距離、配線） 工事用水（水道か井戸か地表水か、水量、場所、水質、取水設備、既得取水者）、電力以外の必要性
仮設建物 施工施設	事務所、宿舎、倉庫、建設機械の設置場および修理施設、材料貯蔵所、材料試験場、プラント、火薬庫、変電所、給油所、電話、電灯、上水道、下水道、燃料ガス、また既存の病院・保健所・修理工場などの有無
輸送	搬入道路（幅員、路面、路盤の強度、舗装の有無、カーブ、交通量、交差点、踏切、交通規制、トンネル維持補修） 鉄道軌道（運行回数、始終発時刻、最寄り駅までの距離、荷役施設、運賃及び手数料）
工事用地	買収済みの用地境界、未解決の用地及び物件、解決済の未移転物件、未解決の場合の解決見込み、借地料、耕作物
支障物件	地下埋設物（通信、電気、ガス、上下水道、排水路、用地路） 地上障害物（送電線、通信線、索道、鉄塔、電柱、やぐら） 交通問題（交通量、定期バス有無と回数、通学路、作業時間に対する制限、祭礼行事障害、観光ルート、回り道） 公害問題（騒音、振動、煙、ごみほこり、取水排水などが学校、病院、商店に与える影響） 相隣関係（公害問題以外に掘削による近接家屋への影響、耕地の踏み荒らしおよび樹木の伐採補償、土砂および排水の流入） 利権関係（水利権、漁業権、林業権、土捨権、採取権、鉱業権、地上権、地役権、特許）
工事関連	附帯工事、関連別途工事、隣接している他業者の工事

6 参考資料

6-1 施工計画書に記載を要する事項（栃木県土木工事共通仕様書抜粋）

編	章	節	条	項	号	条の名称	記載を要する事項
第1編 共通編							
第1章 総則							
1	1	1	4	1		施工計画書	工事概要など14項目（共通仕様書参照）
	1	1	26	9		工事中の安全確保	安全教育及び安全訓練等の具体的な計画
	1	1	27	2	1	爆発及び火災の防止	火薬類の使用計画書
	1	1	32	3		交通安全管理	交通安全等輸送に関する必要な事項
第3編 共通編							
第2章 一般施工							
第3節 共通の工種							
3	2	3	6	4		小型標識工	真空式加熱圧着機以外の機械で反射シートの貼付けを行う場合の理由、機械名等
						3	14
第4節 基礎工							
3	2	4	4	4		既製杭工	杭の打止め管理方法等
3	2	4	5	2		場所打杭工	杭長決定の管理方法等
3	2	4	6	13		深礎工	グラウトの注入方法
3	2	4	7	1		オープンケーソン基礎工	コンクリート打込み、1ロットの長さ、ケーソン内の掘削方法、載荷方法等
3	2	4	8	1		ニューマチックケーソン基礎工	コンクリート打込み、1ロットの長さ、ケーソン内の掘削方法、載荷方法等
3	2	4	9	2		鋼管矢板基礎工	杭長決定の管理方法等
第5節 石・ブロック積（張）工							
3	2	5	3	11		コンクリートブロック工	連結ブロックの連結材の接合方法
第6節 一般舗装工							
3	2	6	12	9	(1)	コンクリート舗装工	暑中及び寒中コンクリートとなる場合の施工・養生方法等
3	2	6	12	12	(3)	コンクリート舗装工	養生期間を試験によらず、セメント種別毎に定められた期間によらない場合の理由と施工方法等

編	章	節	条	項	号	条の名称	記載を要する事項
3	2	第7節		地盤改良工			
		7	7	1		バーチカルドレーン工	バーチガルドレーンの打設及び排水材の投入に使用する機械
3	2	第8節		工場製品輸送工			
		8	1	2		一般事項	輸送計画に関する事項
第2章 土 工							
1	2	第3節		河川土工・砂防土工			
		3	1	6		一般事項	建設発生土の処理方法、排水計画、場内維持等
1	2	第4節		道路土工			
		4	1	9		一般事項	建設発生土の処理方法、排水計画、場内維持等
第3章 無筋・鉄筋コンクリート							
1	3	第6節		運搬・打設			
		6	4	3		打設	1回(1日)のコンクリート打設高さ
1	3	6	9	3		養生	温度制御養生を行う場合の養生方法
1	3	6	9	4		養生	蒸気養生、その他の促進養生を行う場合の養生を開始する時期、温度の上昇速度、冷却速度、養生温度及び養生時間などの養生方法
1	3	第8節		型枠・支保			
		8	3	1		組立て	型枠の外周をバンド等で締め付ける場合の構造、施工手順等
1	3	8	4	1		取外し	型枠及び支保の取りはずし時期と順序の計画
1	3	第9節		暑中コンクリート			
		9	2	1		施工	暑中コンクリートにおいて遅延剤を使用する場合の使用方法、添加量等
第6編 河 川 編							
6	1	第1章		築堤・護岸			
		第8節		水制工			
		10	1	3		一般事項	水制工の施工における水制群中の各水制の設置方法及び順序
第2章 浚 渫 (河川)							
6	2	第2節		浚 渫 工 (ポンプ浚渫船)			
		2	3			作業船及び機関運転工	揚錨船、交通船、警戒船等の作業をする場合の台数、設置位置等

編	章	節	条	項	号	条の名称	記載を要する事項	
6	2	第3節 浚 渫 工 (グラブ船)					作業船運転工	揚錨船、交通船、警戒船等の作業をする場合の台数、設置位置等
		3	3					
6	4	第14節 コンクリート管理橋上部工 (PC橋)					一般事項	コンクリート管理橋の製作工について、定められた事項
		14	1	2				
第5章 堰								
6	5	第3節 工場製作工					一般事項	原寸、工作、溶接に関する事項
		3	1	2				
6	5	第15節 コンクリート管理橋上部工 (PC橋)					一般事項	コンクリート管理橋の製作工について、定められた事項
		15	1	2				
6	5	第16節 コンクリート管理橋上部工 (PCホロースラブ橋)					一般事項	コンクリート管理橋の製作工について、定められた事項
		16	1	2				
6	5	第17節 コンクリート管理橋上部工 (PC箱桁橋)					一般事項	コンクリート管理橋の製作工について、定められた事項
		17	1	2				
第8編 砂 防 編								
第1章 砂防えん堤								
8	1	第3節 工場製作工					一般事項	原寸、工作、溶接に関する事項
		3	1	2				
第3章 斜面对策								
8	3	第9節 抑止杭工					一般事項	杭の施工順序
		9	1	2				
第10編 道 路 編								
第1章 道路改良								
10	1	第9節 カルバート工					現場打函渠工	1回(1日)のコンクリート打設高さ
		9	6	2				
第2章 舗 装								
10	2	第4節 舗 装 工					排水性舗装工	一般部、交差点部の標準的な1日あたりの施工工程
		4	7					

編	章	節	条	項	号	条の名称	記載を要する事項	
10	第3章 橋梁下部							
	3	第3節 工場製作工						
		3	1	2		一般事項	原寸、工作、溶接、仮組立に関する事項	
10	第8節 鋼製橋脚工							
	3	8	9	3		橋脚フーチング工	アンカーフレームの架設方法	
	3	8	9	4		橋脚フーチング工	アンカーフレームの据付け方法	
10	第4章 鋼橋上部							
	4	第3節 工場製作工						
		3	1	2		一般事項	原寸、工作、溶接、仮組立に関する事項	
10	第5章 コンクリート橋上部							
	5	第3節 工場製作工						
		3	1	2		一般事項	原寸、工作、溶接、仮組立に係わる事項	
	5	第5節 PC橋工						
5		5	1	2		一般事項	使用材料、施工方法、主桁製作設備、試験ならびに品質管理計画に関する事項	
10	第6節 プレビーム桁橋工							
	5	6	1	4		一般事項	使用材料、施工方法、主桁製作設備、試験ならびに品質管理計画に関する事項	
		6	2	1	(3)	プレビーム桁製作工(現場)	プレフレクション管理計画に関する事項	
10	第7節 PCホロースラブ橋工							
	5	7	1	4		一般事項	使用材料、施工方法、主桁製作設備、試験ならびに品質管理計画に関する事項	
10	第8節 RCホロースラブ橋工							
	5	8	1	4		一般事項	使用材料、施工方法、主桁製作設備、試験ならびに品質管理計画に関する事項	
10	第9節 PC版桁橋工							
	5	9	1	2		一般事項	使用材料、施工方法、主桁製作設備、試験ならびに品質管理計画に関する事項	
10	第10節 PC箱桁橋工							
	5	10	1	4		一般事項	使用材料、施工方法、主桁製作設備、試験ならびに品質管理計画に関する事項	
10	第11節 PC片持箱桁橋工							
	5	11	1	4		一般事項	使用材料、施工方法、主桁製作設備、試験ならびに品質管理計画に関する事項	

編	章	節	条	項	号	条の名称	記載を要する事項	
10	5	第12節 PC押出し箱桁橋工					一般事項	使用材料、施工方法、主桁製作設備、試験 ならびに品質管理計画に関する事項
		12	1	4				
10	第6章 トンネル (NATM)							
	6	第5節 覆工					一般事項	覆工開始の判定要領
5		1	2					
10	6	第9節 掘削補助工					材料	掘削補助工法に使用する材料
		9	2					
		6	9	4	1		掘削補助工B	施工に伴う周辺環境への影響
10	第8章 鋼製シェッド							
	8	第3節 工場製作工					一般事項	原寸、工作、溶接等製作に関する事項
3		1	2					
10	第9章 地下横断歩道							
	9	第5節 現場打構築工					現場打躯体工	躯体コンクリートの打継ぎ位置に関する事項
5		3	2					
10	第10章 地下駐車場							
	10	第3節 工場製作工					一般事項	使用材料、施工方法、施工管理計画等に関する 事項
3		1	2					
10	第15章 雪寒							
	15	第3節 除雪工					一般事項	情報連絡体制（氏名、職名及び連絡方法）、機 械配置計画に関する事項
3		1	2					
10	第16章 道路修繕							
	16	第3節 工場製作工					一般事項	原寸、工作、溶接、仮組立てに関する事項
		3	1	2				
	16	第21節 橋梁支承工					一般事項	補修計画に関する事項
		21	3	2				
21		4	2					

6-2 その他提出を要する計画書（栃木県土木工事共通仕様書抜粋）

編	章	節	条	項	号	条の名称	記載を要する事項
第3編 土木工事共通編							
第2章 一般施工							
第3節 共通の工種							
3	2	3	13			ポストテンション桁製作工	緊張管理計画書
3	2	3	14			プレキャストセグメント主桁組立工	緊張管理計画書
3	2	3	15			PCホロースラブ製作工	緊張管理計画書
3	2	3	16			PC箱桁製作工	緊張管理計画書
第6編 河川編							
第4章 水門							
第14節 コンクリート管理橋上部工（PC橋）							
6	4	14	3			ポストテンション桁製作工	緊張管理計画書
6	4	14	5			プレキャストセグメント主桁組立工	緊張管理計画書
第15節 コンクリート管理橋上部工（PCホロースラブ橋）							
6	4	15	5			PCホロースラブ製作工	緊張管理計画書
第5章 堰							
第15節 コンクリート管理橋上部工（PC橋）							
6	5	15	3			ポストテンション桁製作工	緊張管理計画書
6	5	15	5			プレキャストセグメント主桁組立工	緊張管理計画書
第16節 コンクリート管理橋上部工（PCホロースラブ橋）							
6	5	16	5			PCホロースラブ製作工	緊張管理計画書
第17節 コンクリート管理橋上部工（PC箱桁橋）							
6	5	17	4			PC箱桁製作工	緊張管理計画書

編	章	節	条	項	号	条の名称	記載を要する事項
第10編 道路編							
第5章 コンクリート橋上部							
第5節 PC橋工							
10	5	5	3			ポストテンション桁製作工	緊張管理計画書
10	5	5	5			プレキャストセグメント主桁組立工	緊張管理計画書
第7節 PCホロースラブ橋工							
10	5	7	4			PCホロースラブ製作工	緊張管理計画書
第9節 PC版桁橋工							
10	5	9	2			PC版桁製作工	緊張管理計画書
第10節 PC版桁橋工							
10	5	10	4			PC箱桁製作工	緊張管理計画書
第11節 PC片持箱桁橋工							
10	5	11	2	1		PC片持箱桁製作工	緊張管理計画書
第12節 PC押し出し箱桁橋工							
10	5	12	2	1		PC押し出し箱桁製作工	緊張管理計画書
第7章 コンクリートシェッド							
第4節 プレキャストシェッド上部工							
10	7	4	6	2		横締工	緊張管理計画書